

令和5年度不動小学校授業改善プラン

第1学年

	課 題	解決のための手だて
国 語	【領域：読むこと】 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 【領域：書くこと】 ○書こうとする内容のまとまりを考えながら、言葉のつながりを考えて書くこと。 【領域：言葉の特徴や使い方】 ○助詞の「は」「へ」「を」や長音、促音を正しく使って文を書くこと。	・言葉のまとまりを意識して読むと意味が分かりやすいことに気付かせたり、読みにくい言葉の意味を共有したりすることによって、語彙を豊かにさせる。 ・行ったことや身近な出来事を思い起こしながら、短い文を書く活動を日常的に取り入れ、書くことに慣れさせる。 ・苦手意識の強い児童には、「○○がどうする。」「○○がどうだ。」「どうしてか」というと○○だからだ。」など、文型を例示して取り組ませる。 ・短文を視写したり、「何がどうする。」「何は、何です。」の文型を使った短文作りをしたりする。 ・長音や促音の正しい表記をノートやプリントを使って指導する。 ・書いた文章は必ず読み直すことを習慣付けることで、日頃から正しい表記での使い方を確かめる。
	【領域：数と計算】 ○数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。 【領域：量と測定】 ○身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。	・文章を読む→半具体物→絵や図に表す→立式→答えという流れを授業の中で取り入れる。 ・具体物や図、絵などで数を表したり、数字にして書いたり見たりすることを繰り返し行い、数の感覚を身に付けられるようにする。 ・たし算とひき算を用いる場面を分けられるように、文章題の中にある言葉(たし算やひき算と分かるもの)に線を引いたり、声に出して読んだりして、文章から正しく立式できるようにする。 ・具体物を使って比べる学習を取り入れ、量感を養う活動を取り入れる。